

フィールド風

(現場)からの

宮田守男

英語のごとく「3月はライオンのように来て、子ヒツジのようにいく」はライオンのように荒れた天気もやがては落ち着く、そんな

な意味だ。穏やかな春が待ち遠しい。
今日は4月1日。昔、西洋では新年のお祝いをした日だ。後にフランスの王様が1月から始まる新暦にする、4月1日は「うそ」の新年」と懐かしみ、ふざけて祝い、これがエープリルフールの起源だとの説もある。この日はかりは、午前中は罪のないウソならついても許され、午後には種を明かすルールで、この日はかりは架空のニュースが情報発信され、知恵を絞ったフェイクニュースに覚えのある人もいるはずだ。改めて「うそ」と

「真実」を見極める方を量求められているのだろう。

今日から新年度を迎え、改めて希望と不安を抱いた人も多いはずだ。出会う人や場面がみな、心地よいとは限らないことも多い。ど

誰もが4月の門は 思いを持ってくぐりたい

んな経験も、自分を磨く砥石になるはずだ。産経新聞のコラム産経抄さんは、昭和の詩人「小熊秀雄」が詠んだ詩の一節「我々はまた人生の青二才だ、がまんのならない一秒間のために、元氣を出せ」

を紹介して新社会人にエールを送った。新成人ばかりでなく、シニア世代の私たちにも、心打つ詩だ。

アンデルセン童話「駅馬車」できた十二人」は、それぞれの月を名乗る、旅行者が自

己紹介しながら1年の門をくぐる物語だ。旅行者の1人である「4月」は「雨が降ったり、日が照ったり」「笑う事もできれば、泣く事もできる」「気分というやつは、あがったりさがったりさ」と、人

生の歩み方は人それぞれだと。人生早咲きの人もいれば、大器晩成などさまざま。誰もが4月の門を、思いを持ってくぐる事を、お勧めしたい。

国土交通省が令和4年1月1日現在の地価を公示。白馬村は長野県内で3年連続最も高い上昇率。新型コロナ収束後をにらみ、移住などを見込んだ国内外の投資家の需要が増えていると分析する情報や観光事業者の積極的な取り組みによりオーリスリープン入込客が期待されるとの評価だ。社会事情や経済状況は大きく変貌している。



進むワクチン接種、だが4回目の接種情報も、携わる関係者が心配になる

1世紀前の土地利用が継続されている現状が、このままで良いのか。高齢化と人口減少の社会の到来は避けられない。次の世代に、どのような土地利用での

地域活性の未来を引き継げるのか、今問われている事を真剣に捉えるべきなのだろう。
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)